

平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備検討の概要について

本市では、被爆の実相を正確に伝えるという被爆地広島に託された使命を果たすため、被爆 75 周年に当たる 2020 年度を目途に、平和記念公園内において旧中島地区被爆遺構の展示整備を行うこととしている。

1 旧中島地区被爆遺構の展示整備の必要性

- ◎ 被爆から 70 年以上が経過し、被爆者の高齢化が進み自らの体験を話される方が少なくなっている中、被爆の実相を後世に確実に伝えていくため、あらゆる取組を展開していく必要がある。その取組の一つとして、平和記念公園を訪れる人々に、この地がかつて広島市の中心的な繁華街であったこと、一発の原子爆弾により多くの人々の日常の営みが一瞬にして破壊し尽されたことを分かりやすく伝えるために、平和記念公園の地下にある旧中島地区の人々の暮らしの痕跡を被爆遺構としてその場で直接見て肌で感じることができるよう展示を行うことが必要である。
- ◎ 特に修学旅行生を始め平和記念公園を訪れる人々の中には、原爆が落ちた場所が広い公園で良かったという趣旨の発言をされる方もおり、平和記念公園の地にもともと多くの人々の日常の営みがあったことや原爆により失われたものの大きさが正確に伝わっていないことが懸念されることから、被爆遺構の展示を行うことが必要である。
- ◎ 平和記念資料館本館下の発掘調査をきっかけに、旧中島地区に住んでいた被爆者等で構成された市民団体が活動を開始するなど、被爆遺構の展示が必要であるという市民の意識が広まりつつある。

《参考》平和記念資料館本館下発掘調査の状況について

公益財団法人広島市文化財団文化財課による解説

2 展示整備に当たっての課題

◎ 国の名勝指定

平和記念公園は、「公園」として国の名勝に指定されており、現状変更するには、被爆遺構を平和記念公園の機能の一つとして位置付けるという視点での検討が必要となる。(別添参考資料「平和記念公園の名勝指定について」参照)

◎ 遺構の発見

実際に試掘してみなければ、平和記念資料館本館下から出土したような市民の日常の営みを感じられる遺物が発掘できるかどうか分からない。

◎ 遺構の劣化・風化

遺構展示の保存管理は極めて困難であり、たとえ合成樹脂で固めても、合成樹脂そのものの劣化によって遺構を破壊することになるなど、物理的、化学的、生物的な劣化及び風化による保存への悪影響が必ず生じる。

◎ 展示方法

被爆遺構そのものや名勝の価値をできる限り損なうことのないよう、現物展示やレプリカ展示、デジタル技術を活用した展示（AR、VR）などの中から、適切な方法を検討していく必要がある。

3 平成30年度のスケジュール（予定）

時期	内 容	主な議題（案）
7 月	第 1 回懇談会	・ 平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備検討の概要について ・ 試掘場所の提案について
9 月	第 2 回懇談会	・ 試掘調査を行うエリアについて
10月	文化庁との協議	・ 試掘調査について許可申請
12月～2 月	試掘調査	—
3 月	第 3 回懇談会	・ 試掘調査結果の報告 ・ 整備方針素案について ・ 意見聴取先について

《参考》平成31年度のスケジュールについて

試掘調査の結果を踏まえ、おおむね次のとおり検討を進める。

内容	主な議題（案）
市民アンケート、関係者意見聴取	—
第 4 回懇談会	・ 市民アンケート等の結果の報告 ・ 整備方針案について
整備方針策定	—